

令和5年度「アウトリーチ（訪問支援）研修」 実地研修計画書

【1 機関・団体概要】

機関・団体名	特定非営利活動法人わたげの会 (社会福祉法人わたげ福祉会)
機関・団体代表者	理事長 秋田 敦子
所在地	〒982-0001 仙台市太白区八本松一丁目 12-12
電話番号／FAX番号	022-246-8458 / 022-246-8457
HPアドレス	http://watage.or.jp
実施場所	〒984-0823 仙台市若林区遠見塚一丁目 18-48 (NPO 法人わたげの会と二ヵ所での研修)
研修実施場所の最寄駅	初日：地下鉄東西線「薬師堂駅」 最終日：地下鉄東西線「薬師堂駅」
団体概要 (設立趣旨等)	不登校・ひきこもり者を含む青少年、並びに障害者の社会復帰支援を行って26年になる。家族支援に力を注ぎ、家族が社会から孤立をしないための包括的支援を目的としたネットワークを構築している。社会との接点等の社会参加や、自立支援のための相談、家族支援、就労支援、居場所提供を行い、いずれも社会参加に向けて必要な物を身に付け、生きる目的を持って生活を営むことが出来る地域社会の構築に寄与することを目的としている。
職員数	44名 (訳：常勤 36名 / 非常勤 8名)
機関・団体の アウトリーチの特徴等	平成9年設立当初から、不登校・ひきこもり等の困難を有する子ども、若者及びその家族に対し、面談を継続的に行いながら、必要に応じて訪問を行い、所属、家庭以外の居場所（フリースペース）や、社会参加及び自立に向けた支援を実施している。当事者支援だけではなく、家族支援に力を注ぎ、個別相談と心理教室（グループワーク）を毎週行いながら、家族・支援者・各関係機関が連携しながら支援を行っている。当法人のアウトリーチは、そこまでに時間をかけ信頼関係を築き、家庭と言う土台の基礎固めを学びながら本人が関心を示すようになった時点で訪問を行っている。力をつけた家族が家族サポーターとして訪問することもある。
機関・団体で運営している 相談・支援機関名	仙市委託事業：仙台市ひきこもり地域支援センター

機関・団体で運営している 相談・支援機関名	仙台市委託事業：居場所事業（第一フリースペース・第二フリースペース）
	仙台市委託事業：社会参加事業
	宮城県委託事業：宮城県ひきこもり地域支援センター南支所
	宮城県委託事業：居場所事業（フリースペースなとり）

【2 令和4年度中のアウトリーチの実績概要】

令和4年度アウトリーチ件数は120件、本人対象が98人、家族対象が22件になったが、家族面談を継続的に行っている中で、本人が来所するケースも多くなった。令和4年度もコロナ禍の影響で、訪問を望まないケースも多くあった。支援方法は、家族面談を丁寧に行いながら、タイミングを計りながら、支援対象者の家族を家族教室・面談・家族サポート養成講座を通してエンパワーし、「家族サポーター」となり、支援対象者の家庭の中に柔らかな「風」を入れる役割で訪問する場合と、スタッフが二名のまたは一名で訪問をスタートしている。強引に本人へアプローチするのではなく、家族の中に第三者が柔らかに介入していくようになっている。

【3 過去2年間における子供・若者の支援に関する研修実績】

宮城県民児協・不登校ひきこもり研修会（3回180名）・仙台市青葉区職員研修会（25名）・泉区職員研修会（20名）・地域包括支援センター職員研修会（6回オンラインも含む180名）・東北文化学園大学授業（9名）東北大学教育学部オンライン研修会（25名）社会福祉士協会研修会オンラインも含む（2回65名）仙台市各区内でのひきこもり相談会（年6回計12回）一般、家族、支援者向け（親亡き後研修会400名）社会福祉法人ネットワーク研修会（オンライン研修28名）・当法人内1泊2日家族研修会（2回46名）仙台市社会福祉協議会主催民生委員研修会（4回240名）名取市民児協研修会（55名）東松島市民児協研修会（60名）

【4 過去3年間における国又は地方公共団体の委託事業や自主事業等】

宮城県委託事業「宮城県ひきこもり地域支援センター」
 宮城県委託事業居場所事業「フリースペースなとり」
 仙台市委託事業「仙台市ひきこもり地域支援センター」
 仙台市委託事業「青少年社会参加事業」・「居場所事業」
 仙台市委託事業「地域活動支援センター・第二フリースペース」
 共同生活援助事業・就労継続支援事業B型・障害者自立訓練事業（通所・宿泊）・相談事業所
 自主事業「宿泊訓練寮メゾンわたげ18名」・学び直し事業「学習サポートセンター」

【5 実地研修責任者・担当者】

	実地研修での役割 (実施責任者・担当者等)	・保有資格（アウトリーチ関連） ・アウトリーチ経験年数
1	理事長・統括・コーディネーター	交流分析士・アウトリーチ歴27年
2	センター長・コーディネーター	児童発達サビ管・25年

3	PSW・コーディネーター	精神保健福祉士・20年
---	--------------	-------------

【6 研修生の受入条件】

受 入 条 件	
受入可能日数	10日
受入可能日程	9月25日（月）～12月15日（金）までの10日間であれば、研修生の希望日で調整可能
受入可能人数	2名ずつ3回まで受け入れ可能。
保有資格（アウトリーチ関連）の要否、その他の受入条件	保有資格は問わない。

【7 実地研修内容】

実 地 研 修 内 容			
※下記の「初日」～「最終日」までの研修内容については、過去の実績に基づいた予定となります。			
実地研修全体の概要		訪問に関しての、事前把握事項や家族と一緒に訪問に至る計画を作成することの重要性を理解してもらいながら、訪問者が支援者臭を出さないよう、自然な形で繋がることを学んでもらう。本人に会えずとも家庭の中に風を入れる役割にもなっている。	
研修初日の 開始予定時刻	研修最終日の 終了予定時刻	10:00 開始	16:30 終了
2日目以降の 研修開始時間	2日目以降の 研修終了時間	10:00 開始	17:00 終了
初日の内容		<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・法人概要、事業概要、研修内容、留意点等について説明 ・各事業所見学 	
アウトリーチ （訪問支援） を実施しない日の内容		<ul style="list-style-type: none"> ・訪問支援について事前学習 ・訪問後当法人に通っている若者とのヒアリング ・家族勉強会への参加 ・アウトリーチ現場への同行 ・アウトリーチでは本人に繋がるまでのプロセスを丁寧に進めることが重要であり、そのうえで支援者が行う事について学ぶ。 	
アウトリーチ （訪問支援） 同行日の内容		<ul style="list-style-type: none"> ・同行当日、訪問スタッフとの最終打ち合わせ ・訪問時の様子（家庭内・家族・本人）の観察と把握 ・帰宅時にスタッフと振り返り 	

最終日の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実地研修の振り返り ・ 訪問時における自分の立ち位置や、言葉の重要性を振り返る ・ 訪問に至るまでに準備することや把握しておくことの確認 ・ 訪問のタイミングを見極めることの重要性について振り返り
前年度実地研修でのアウトリーチ実施回	<p>訪問件数が多いが慎重にしているため、昨年は4回実施 (現在訪問している家庭に実習生が同行することは、本人の状態によってはかなりハードルが高く、拒否も多いため事前に人物に関する情報を丁寧に伝えるようにしている)</p>
今年度実地研修でのアウトリーチの回数(予定)	最低でも一回から二回実施したいと考えている。
研修生の宿泊について	指定なし
休業日について	土・日
備考欄(服装等)	作業やスポーツのプログラムがあるため、運動しやすい服装と運動靴持参すること